

資質・能力を育む 21 世紀型英語授業の探究

— 中学 1 年生でのアクティブラーニング (AL) を可能にする英語授業の実践 —

多賀 徹哉

What can teachers do to develop students' abilities for Active Learning? This is the main topic of this report. First, the abilities needed for AL are identified. Second, activities to develop the abilities are described with a teaching plan.

1. はじめに

21 世紀の世界を担う子供たちの何を育てることが重要なのか。このテーマにおいて強調されるのが「資質・能力の育成」である。実際の授業の中ではアクティブラーニング (AL) も具体的な取り組みの一つとなろう。小学校から中学校・高等学校・大学を通じて、AL を基にした学びの方向に動いている。筆者が AL 活動にしっかりと踏み込んでいるかという点とまだまだその端緒についたばかりと言わざるを得ない。関連する活動を様々な授業の中で行ってはいるが一連の流れの中で 1 つの課題に向かって授業を積み重ねるような実践はまだできていない。実際に取り組んでおられる先生方の実践例を見たり、いくらか文献をあたってはいる。現在曖昧ながらイメージしている AL と異なることもある。

さて、AL と本稿で報告する授業の関連は次のようなことから始まる。

当校は平成 27 年度 (2015 年) にスーパーグローバルハイスクール (以下 SGH) に採用された。筆者は当時中学 1 年生の英語を担当していた。生徒たちが高校 2 年生になるとき、学校は SGH としての最終年を迎える。そのとき、SGH として、授業の中で、あるいは、SGH の様々なプロジェクトに生徒たちは取り組んでいるはずである。その生徒たちを想像するとき、ある一つの光景が浮かぶのである。それは、授業 (英語) にしろ、プロジェクトにしろ、生徒たちが英語を言語としながら活動している、というものである。成果発表の段階でレポートやプレゼンテーションを英語で行うというのはよくあるが、生徒同士が英語でやり取りしながら活動できることがグローバル化時代の生徒の能力のひとつであろう。

その能力をつけるために中学校の段階でできることはないだろうか、と考え始めたのがここで報告する授業を計画するきっかけである。

本稿では、次の 2 点をまとめた。

1. 生徒につけたい資質・能力のうち 2 点を取り上げ、

それらを育む授業の概念。

2. 生徒が英語を使いながら活動を運営する力をつける授業の報告。

2015 年度に担当した、中学 1 年生で可能な授業を報告する。

2. AL の定義

本稿で報告する中学 1 年生の英語授業は、筆者が個人的に定義する AL の考えに基づいて行ったものである。公的な出版物、研究者や現場教員が提唱するものとは多少異なっている点もある。むしろ、考え足らずの点があることも事実である。そもそも、SGH のプロジェクトの途中の活動を英語で運営するなどということは校内のコンセンサス上でのことではない。筆者の個人的な理想である。その理想の実現を目指しての授業の創造である。

AL を『一方的な知識伝達型講義を聴くという (受動的) 学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う』と定義している研究書もある。

これを単純に英語の授業に置き換えると、例えば、生徒同士の Q & A や 1 分間スピーチと質疑など、日常的に行っている授業の活動は AL と言えるだろう。

原稿を用意する = 書く。

発表する = 話す。

質問する = 話す。

あるいは教科書を使って学習する場合に、分担して本文内容を説明する。質問を作る。なども AL と言えるだろう。どれも講義型の学びではないからである。

こうした、日ごろの授業でごく普通に行われているものを AL と呼ぶ可能性を筆者は否定しない。しかし、筆者は AL を少し別なところに置きたい。

それは、筆者にとっての AL は「日ごろの授業で発生した、あるいは生徒が発見した問題点や課題について、その理由や解決策を模索する一連の活動」である。

英語授業 (教材) を基に、生徒が問題・課題を見つけ

たところから始まる，様々な分野の知識や資料を集め・組み合わせで自分の提案を完成度の高いものに構築した上で，他者と突き合わせ，議論し，合意点を見つけ出そうとする活動である。その基礎づくりの1つがこの報告であると認識している。

3. 生徒につけたい資質・能力

本稿では能力の部分を単純に英語運用力と置き換えている。従って，英語を「聞く・話す・読む・書く」力をどのようにつけていくかである。

他の1点はALに深くかかわってくるものである。それは，「状況を的確に把握し，より適切な行動や考えを出せる」思考力を備えさせることである。

教材から出てきた問題や疑問を，

1. 教材にある条件，記述を基に説明したり，解決したりする力をつける。
2. 生徒が持っている知識（英語以外の教科領域や日常生活上の知識）で説明したり，解決したりする力をつける。

これはいわば「思考力」の育成である。状況や条件を的確に把握・分析し，適切な理由づけのもとに行動する力をつけていくのである。学習指導要領の英語編でいうところの「思考・判断・表現」の思考とは少し視点の異なるものである。

4. 授業の具体

1. 英語力の育成

ALでは何を使用言語にするかは規定されていない。しかし，はじめに，にあるように筆者にとって，ALは英語が使用言語でなければならない。従ってALを可能にする能力として，英語の力（聞く・話す・読む・書く）を伸ばすことが必須である。ただし，これはALであろうとなかろうと英語の授業では当然のことであり，ALに特化した授業の活動はない。本稿では実際に授業で行った活動を報告する。

小学校での外国語活動が定着しつつあるとはいえ，学校間の取り組みの差があることや，習得している言語材料が乏しいので，1学期の始めからペアワークなどを通して会話を行うことは難しい。暗唱など，教科書を材料にした学習が中心となる。夏休み以降の活動で次のようなことを行った。

<書くこと 話すこと 聞くこと>

- ①日記を書く。（夏休みの宿題）
- ②日記の1回分をクラスで発表（2学期）
- ③ My School（出身小学校の紹介）作文と発表。

絵や写真を使ったプレゼンテーション

聞いている生徒は，グループ代表が質問をする。また，聞き取りシートを使用して発表を書き取ったり感想を書く。（日本語）

④ My Treasure 作文と発表。

絵や写真を使ったプレゼンテーション

聞いている生徒は，グループ代表が質問をする。また，聞き取りシートを使用して発表を書き取ったり感想を書く。（日本語）

- ⑤教科書の内容について生徒が互いに質問し，答えあう。2～3問と質問の数を限定し，生徒に質問をやらせる。生徒は質問を書き出さず，質問したいところを教科書にしるしをつけておき，英語で質問する。正解なら"OK"，"Good"などの応答も忘れずにさせる。教科書の内容についての質問のあとに，必ず，個人的な質問を追加させる。

例1：

<p>Student A: Where does Ms. brown's sister live? *¹</p> <p>Student B: She lives in London.</p> <p>Student A: OK. Does she play the bagpipes?</p> <p>Student B: Yes, she does.</p> <p>Student A: Do you play the bagpipes? *²</p> <p>Student B: No, I don't. But I play the piano.</p> <p>Student A: Really? Me, too.</p> <p>.....</p> <p style="text-align: right;">*¹ ほぼ教科書通り</p>

<読むこと>

①サイドリーダーの活用

教材： Apollo 13 (Longman)

The Shakespeare Letters (Longman)

ワークシートを作成して読ませる。生徒は制限時間内にワークシートに記入し，後にペアやグループで答え(情報)を共有する。

2. 思考力の育成

日ごろの授業の中での発問の工夫によって「思考力」を鍛えることは可能である。

例2：

<p>Teacher: Kumi says, "Don't wash the dishes. And take it home." Why?</p> <p>Student A: えっと，川が汚れる。*³</p> <p>Teacher: Yes, the river will be dirty.</p> <p>Student B: 環境。</p> <p>Teacher: Right. Kumi is friendly to the environment.</p>

例1 New Crown English Series ① Lesson 6 Part 3 p.68

例2 3 Lesson 4 Part 3 p.48 Lesson 5 Part 2 p.56

※³ 言語材料不足のため可とする。
この間、生徒は辞書で調べている。

例 3 :

Teacher: Raj says, "I play it near the river." Why?

Student A: It is very big. ※⁴

Student B: Raj plays it on Sundays. ※⁵

Teacher: Then?

Student B: No school.

Teacher: The school is closed. Good guess.

※⁴ bank がわからない。広い場所があると言いたい。

※⁵ 教科書の記述を利用。



さらに、他の教材を利用した思考力の育成と次に述べる活動運営能力育成を組み合わせた授業を、2学期に実施した。その1つを当校第45回教育研究会の公開授業で紹介したので次項5授業例にて示す。

3. 活動運営能力の育成

SGH を含め現在、「協働」というキーワードのもとに授業が展開されている。協働での学習では当然のことながらペアやグループで生徒が話し合う姿がある。この話し合いの場が英語で行われる、ということが筆者の理想とする AL の一部となる。中学1年生が高校生になったとき、グループで円滑に話し合いができるためにこの段階から準備できることを計画した。授業の中に英語で話し合いの場を作る、ということである。

ただし、修得言語材料が少ない、という条件の下でのことであるから、その範囲は限定される。

話し合いの場に必要なのは次の点である。

ルールを作り、そのルールに従って話す。

①毎時間リーダーと記録係を決める。(輪番)

リーダーは話し合いの司会を行う。

司会の話すセンテンスパターンを決めてそれによって他の生徒に発言を促す。

必ず、グループ員全員が発言するようにする。

②記録係はグループの結論を書き、発表する。

定型的な話し合いの場を経験させることで、英語による話し合いから議論へと進む準備ができるのではないかと考えた。

5. 授業例

第45回教育研究会(当校主催 11.27. 2015)での筆者の公開授業を提示し、授業の例として説明する。

なお、授業は41名のクラスで、6~7名の6グループの形態で行った。この形式での授業はこの公開授業を

含め合計で7回行った。

展開1: ウォーミングアップ Seven-Sentence-Story

誰もが知っている話(昔話など)を1人1 sentence ずつでつないで完結させる。前の生徒が何を話すかをよく聞いておかないと自分の話さなければならないことがわからない。

留意点: いきなりでは難しいので3時間にわたって繰り返し、行う。

1回目: 順に1人ずつ1 sentence 分を日本語で言わせる。

2回目: 順番を変えて英語で言う。

3回目: さらに順番を変えて言う。完成なのでクラスに発表させる。

辞書は自由に使わせる。次の時間までに必要な語句を調べる余裕を持たせる。

展開2: Review 前時(教科書)の内容の復習。前項4授業の具体、で示したように、教科書に沿った質問と個人的な質問をさせる。

留意点: パートナーの応答(答え)に対する応答を忘れさせない事。(OK や Good など)

展開3: 教科書以外の教材を使った活動 「思考力」の育成と英語での活動運営を意図したもの

リーダーのもと

①登場人物の特定 特徴も挙げる。

②出来事を理解する。

③空欄に story の展開上必要な1文を考える。

④空所に story の展開上必要な1語を考える。

リーダーは次の Sentence pattern を使ってグループ員から情報や考えを引き出す。記録係は書き取っておく。

1. Who is in the story?

2. Do you have any information about ~ (登場人物) ?

3.What happened? (出来事)

4.What is a good sentence (word) in the first/second blank?

(詳しくは資料3を参照)

留意点：リーダーは複数のグループ員に同じ質問を行い、結果として全員が何らかの発言をすることを保証する。

例4：

Leader: Who is in the story?
 Student A: John is.
 Leader: Do you have any information about John?
 Student B?
 Student B: John is a dog.
 Leader: How about you, Student C?
 Student C: He lives with kitten.

資料2に示している空欄の補充についてグループで意見交換するときは、必ず理由を言うように指導した。

6. 検証

これまで示してきた考え方と授業で生徒の資質・能力が向上しているのか、ということの検証が必要であり重要である。担当したクラスとそうでないクラスの比較なども必要である。定期考査での他のクラスとの比較では差は出ていなかった。また、活動運用についても、比較できるほどの活動回数がなかった、ということで定着できるほどではなかったと言える。今後、活動を改善していきたい。

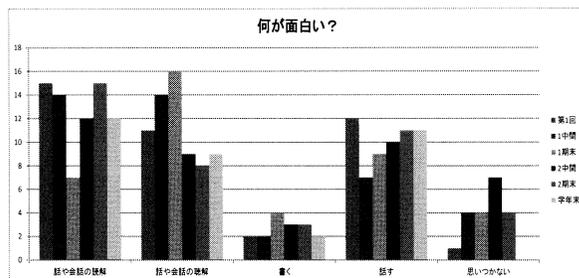
学年末には生徒の意識調査を行った。これは生徒たちの英語の学習についての全般的なもので、1年間に数回行ってきたものである。

この調査のうちの1つの項目について取り上げて成果について述べたい。3クラスのうち、本報告の活動を都合7回行ったクラスは1つで、他のクラスはこの活動を一部行ったのみである。

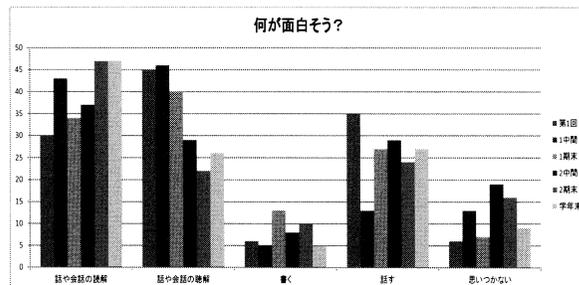
全体の様子と担当クラスのものとは同じようなものである。しかし、2学期以降について言えば、読解や会話への興味では、全体で一度上昇したものの、学年末にはやや落ちているのに対し、担当クラスは上昇しそのままの状態で学年末となっている。7回の授業では教科書以外の教材を編集して使った。その教材で生徒の興味を引き出したのかもしれない。

会話については、全体も担当クラスも1学期末に落ちているが、これはおそらく、中学校に入り、言語材料の

学年全体



公開授業担当クラス



少ない段階では小学校の外国語活動の延長でやれたことが、学習することが増え、少しずつ対応に困難さを感じたのではないかと推察される。しかし、2学期から発表の機会が増え、人前で話すことに少しずつ慣れてきたことを示しているのではないだろうか。

参考文献

学習指導要領中学校編
 学習指導要領高等学校編
 松下佳代編著「ディープアクティブラーニング」(勁草書房 2015年)
 笹島 茂編著「CLIL 新しい発想の授業」(三修社 2011年)
 国立教育政策研究所編「資質・能力 理論編」(国研ライブラリー 東洋館出版社 2016年)
 New Crown English Series ①(2011年検定済版 三省堂)
 VERY EASY TRUE STORIES (Longman)
 日本教材文化研究財団編 調査研究シリーズ 64「グローバル人材に求められる英語力の育成」(2016)

(資料1) 2015年度第45回教育研究会公開授業 中学1年生 指導案(抜粋)

4. 単元計画 (全7時)

第1時 現在進行形を用いた文の構造を伝える。

第2時 本文の内容を理解する。(Part 1)

第3時 本文の内容を理解する。(Part 2)

第4時 本文の内容を理解する。(Use) (以上 New Crown English Series ①)

第5時(本時) 進行形を含んだ Story について話し合う。

第6時 学校紹介をする想定でホームページの原案を考える。(New Crown English Series ①)

第7時 学校紹介をする想定でホームページを完成させ、発表する。(New Crown English Series ①)

5. 単元の評価規準

ア. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ. 表現の能力	ウ. 理解の能力	エ. 言語や文化についての知識・理解
・間違いを恐れず、積極的に話している。	・伝えたいことを正しい表現を用いて話している。	・書かれていることを正しく読み取ることができる。	・現在進行形の用法を理解している。
①前時に学習した内容を自分の言葉で説明したり、質問したりする活動に積極的に参加している。 ②グループでの話し合いに参加している。	①自分の言葉で教科書の内容を説明できる。 ②自分の意見を相手に伝えることができる。 ③話の展開にふさわしい表現をしている。	①説明文の内容が理解できる ②話されたことを正しく理解できる。	①現在進行形を用いた文の構造を理解している。

6. 本時の主題

単元で学習した現在進行形を含む文章を読み、必要な文を加えることで論理的に可能な展開を考える。同時にグループで英語を用いて話し合うことを習慣づける。

7. 授業展開過程

時間(分)	学習活動	指導上の留意点	評価との関連	評価の実際
0	Warming Up Seven-Sentence-Story グループで、1人 sentence ずつつないでお話を完結させる。	前の人の発言をよく聞く。 元の話の展開に沿って続きを口頭で話す。	ア.①	観察
10	Review 前時の内容を英語で説明する。質問をする。(pair work)	本文の内容が伝わるように相手に語る。共通理解していることでも相手に質問する。	イ.①	観察
15	追加教材に取り組む。 ・登場人物を特定する。 ・Story 展開の最も重要な部分(空白部)で求められる内容を特定する。 ・空白部に英文(英語)を加える。	グループに分かれて行う。 活動の運営は英語を用いて生徒が行う。	ア.②	観察
40	発表する。	ホワイトボードに記入する。 口頭でも発表する。 理由も用意する。		
45	音読	完成した Story を音読する。		

(資料2) 教材

John

John is a male dog. He lives in a garage. There are many things in the garage.
 For example, his house, broken toys, treasures, wooden board, tools for DIY and so on.
 And he lives with three kittens. They are good friends.
 His owner Tom is out in the town. It began to rain.
 It is raining very hard. The water is coming into the garage.
 Now Tom is on the hill near the house. Where is John and the kittens.
 He is calling John.

Look. John is swimming in the water.
 And the kittens are on the wooden board in his mouse.

The kittens are safe. They have a wise friend.

※生徒用は 内無記入。

(資料3)

1年生 Phrases for the group work

2015

本文内容理解

○登場人物の特定

Who is in the story?

Who is the main character?

○○ is.

○その他の情報

Where, When, How を使う。

話し合い

○英語表現がわからないとき。

What is ■■ in English?

◇ (その phrase を言う)

○提案

I think that is good:

We need .

My idea is " "

→続けて理由を言う。(本文を引用しながら)

○○ V / do(es) n't V, so .

 (本文の必要部分) , so I think .

○出来事の確認

What is happening?

What happened?

What do(es) ○○ do?

○課題に取り組むとき。

(blank にふさわしい英語を入れる)

What do we need for blank ~?

○賛成・反対

It's a good idea.

I think so, too.

I don't think so.

→続けて理由を言う。(本文を引用しながら)

○○ V / do(es) n't V , so .

 (本文の必要部分) , so I think .